

# モモせん孔細菌病の春季防除情報

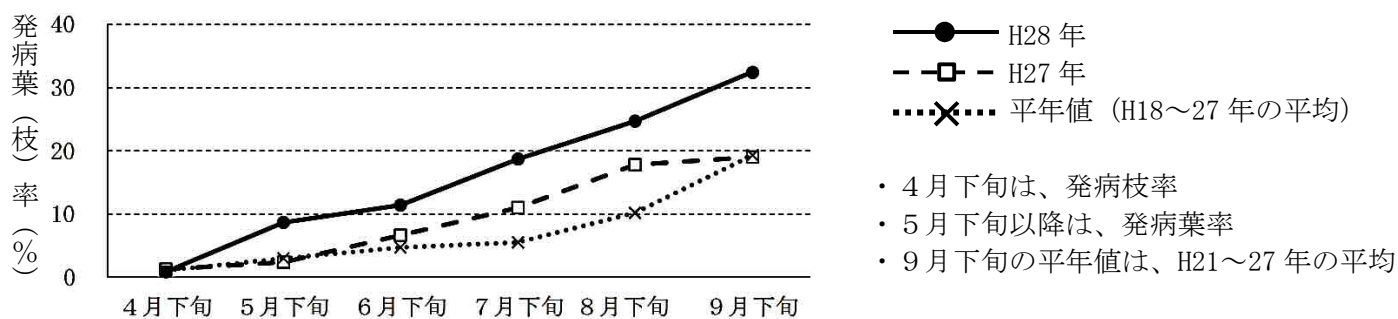
平成 29 年 3 月 3 日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 1 昨年 の 発 生 状 況

昨年における本病の発生量は、期間を通して多い状況が続き（図）、9月下旬に行った巡回調査（18ほ場）では、発病葉率が32.6%（平年19.3%、前年19.1%）で、調査を開始した平成21年以降の過去7年と比較して最も高い状況でした。

本病は前年秋の降雨が多いと、翌年の発生量が多くなることが知られています。昨年9月において、降水量が0.5mm以上あった日数は、17日（平年11日、前年14日）で、過去10年と比較して最も多くなりました（地点：名古屋観測所）。

以上のことから、今春における本病原菌の越冬量は多くなっていることが予想されます。



- H28年
- H27年
- × 平年値 (H18~27年の平均)
- ・ 4月下旬は、発病枝率
- ・ 5月下旬以降は、発病葉率
- ・ 9月下旬の平年値は、H21~27年の平均

## 2 防 除 対 策

- 本病原菌は、落葉痕部や枝の組織内で潜伏状態で越冬しています。越冬病原菌量を減少させるため、表を参考にして開花前の防除を徹底しましょう。
- 越冬した本病原菌は、春になって気温が上昇すると、増殖して春型枝病斑を形成します。これが、今年の作の伝染源となります。春型枝病斑は、開花期に発生し、落花期には目立つようになるので、その時期にはほ場内をよく見回り、病斑は見つけ次第、除去しましょう。
- 防風ネットの設置、補修を行うなど防風対策を実施しましょう。
- スピードスプレーヤーで防除する場合、薬剤がかかりにくい場所は手で散布するなどして、かけ残しがないようにしましょう。
- 銅を含む薬剤は、開花後に散布すると薬害を生じる恐れがあるため、注意しましょう。

表 開花前に使用するモモせん孔細菌病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	成分	系統	FRACコード
カスミンボルドー/ 銅ペーパーシ水和剤	開花前まで	500倍	3回以内	カスガマイシン、銅	抗生物質、無機銅	24、M1
コサイド3000	開花前まで	1000倍	—	銅	無機銅	M1
ICボルドー412	— (※)	30~50倍	—	銅	無機銅	M1
チオノックフロアブル/ トレノックフロアブル	収穫7日前まで	500倍	5回以内	チウラム	有機硫黄	M3

※薬害を生じる恐れがあるので、開花後から8月末までは使用しない。

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示します。

FRACコードの詳細は、<http://www.jfrac.com/fracコード表/> を御覧ください。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。